

昭和興産 インドネシア現法で開所式 サニタリー18年売上高10億円へ 部材など

【ジャカルタ】渡邊康 昭和興産は、インドネシアで現地法人を立ち上げた。サニタリー部材などの一般消費財関連、樹脂や切削油などの自動車関連、汎用樹脂・コンパウンドといった産業資材などのインフラ関連の部材を、まず現地に供給する日系顧客向けに供給するが、将来は現地調達も視野に入れる。2018年には売上高10億円を目指す。このほど現地で開所式を開催、沢瀉一雄会長や田淵明雄社長など幹部のほか、現地の顧客企業代表など40人強が参加した。

現地法人「昭和興産インドネシア」(資本金100万)が、社長は田淵社長(兼務)は6月に設立。8月に貿易ライセンスを取得し、9月から事業を開始している。同社はタイ、中国(上海、香港)に海外拠点を有し、インドネシアは4拠点目。開所式であいさつした田淵社長は「当社は2013年度を初年度とする3カ年の中期経営計画で、アジア事業の拡大を重点テーマの一つとしている。インドネシア拠点を橋頭堡の一つとしてアジアでのビジネス拡大を現実のものとしていきたい」と述べた。

取り扱い品目は、サニタリー部材などの一般消費財関連、樹脂や切削油などの自動車関連、汎用樹脂・コンパウンドといった産業資材などのインフラ関連の部材を、まず現地に供給するが、将来は現地調達も視野に入れる。2018年には売上高10億円を目指す。このほど現地で開所式を開催、沢瀉一雄会長や田淵明雄社長など幹部のほか、現地の顧客企業代表など40人強が参加した。



開所式に出席した沢瀉会長(左)、田淵社長(右から3人目)ら

費財関連、樹脂や切削油などの自動車関連、汎用樹脂・コンパウンドといった産業資材などのインフラ関連がそれぞれ3割、残りが食品や電材など。まずはインドネシアに進出している日本で取引のある顧客向けに原材料を輸入し、税関手続きを済ませていく。

プカシ島の工業団地「グリーンランド・インターナショナル・インダストリアル・センタール(GIIC)」に立地。1階部分に少ロット品を在庫できるほか、近くに倉庫を借りて在庫販売を開始している。倉庫はマイナス20度Cまで冷蔵・冷凍保存が可能となっている。

.....

開所式に出席した沢瀉会長(左)、田淵社長(右から3人目)ら